



江戸時代には川越藩の城下町として栄えた埼玉県川越市。戦災を免れたこと、また蔵や景観の保全に早くから取り組んだことで、歴史のある街並みが残っています。

年間約400万人もの観光客が訪れるという川越。今回はその川越の魅力に迫ってみたいと思います。

## 蔵造りの町並み



川越市は、埼玉県の中央部よりやや南部に位置する人口約33万人のまちで、2003年4月1日に埼玉県で初めての中核市となりました。

今では、落ち着いた雰囲気町の町並みをみせている川越ですが、1893年(明治26年)3月、市街地を全焼するという悲劇が襲ったのです。

この大火を機に耐火建築である蔵造りの建物がつくられるようになりました。こうして、個性的な町並みがつくられ、川越の歴史的景観を代表する「一番街」は重要伝統的建造物群保存地区にもなっています。

ところで、なぜ「川越」と呼ばれるようになったか、みなさんご存じですか?一説によると、市街地を川が囲む形になっていて、川を越えないと市街地にたどり着けないことから「河越(川越)」と呼ばれるようになったとか。はっきりとした由来はわからないようですが、納得してしまいますよね!?

歴史的・文化的に価値が高いと認められた集落・町並みを国が選定し、その保存整備が進められている地区。福島県では、下郷町の大内宿が選定されています。

「一番街おもしろMAP」は商店街で入手!!



歴史を感じる「一番街」の町並み。電線が無く、すっきりした印象ですね!



寛永年間(1624~1644)の頃、川越藩主の酒井忠勝氏が建てたといわれている「時の鐘」。現在の建物は大火直後に再建されたものだそうです。





「大正浪漫夢通り」歴史的な建築と現代建築が混じり合った独特な雰囲気です。



通りの雰囲気に合わせて、地上機に目隠しが施されています。



「菓子屋横丁」は平日でも人通りが多く、にぎわっています。



お菓子の匂いが漂う空間。大人も子どもも楽しめます(^-^)



路面に駅の案内が表示されています。

一番街のほかに、特徴的な通りがいくつもあります。そこで今回は、「大正浪漫通り」「菓子屋横丁」「新富町・サンロード」の3つを紹介します。

**大正浪漫夢通り** かつては、銀座通りと呼ばれていたこの「大正浪漫通り」は、川越の中心商業地を担っていたそうです。また、先に紹介した一番街と同様、蔵造りや町屋造りの歴史的な建造物が多くあります。

お菓子の香りにつつまれた**菓子屋横丁**から歩ける通り、「菓子屋横丁」は、平成13年に環境省の「かおり風景100選」に選ばれました。

「菓子屋横丁」の歴史は明治時代にさかのぼります。関東大震災の際、大きな被害を受けた東京に代わり、お菓子を製造し全国へ供給していたそうです。最盛期の昭和初期には70軒以上のお店が軒を連ねていたとか。現在の横丁は、石畳の道になり連日たくさんの人でにぎわっています。

**新富町・サンロード** 川越駅から北へ約1.2km続く商店街。よそのまちがうらやむほどの賑わいをみせている商店街です。しかし、個人のお店が集まってきている商店街は、日々、大型店の進出や近隣都市の商業規模拡大などの危険と隣り合わせています。この新富町のまちづくりも川越駅の再開発とそれに連動した道路計画が引き金になり、スタートしました。この計画の可否を検討すべく立ち上がったのが「まちづくり協議会」。この協議会は、自治会、商店街、事業所からなる組織です。昭和63年に「新富町まちづくり協定」を、平成3年にはサンロード側も同様の協定を締結し、また、平成7年にはモール化計画の検討を始めました。サンロード側から始まったこのモール化事業は、平成11年に完成し、愛称クレアモールとなりました。

これからも新たなまちづくりの取り組みが期待されますね！



「新富町・サンロード」の街路灯はあまり目立たないデザインになっています。



交差点部は色を変えて、安全面にも配慮されています。

**今号の問題です！**

川越市の面積は109.16km<sup>2</sup>ですが、福島県の町の中で、もっとも近い面積の町は次の3つのうちどこでしょう？ 榎葉町(1.45) 石川町(1.71) 柳津町(1.07)

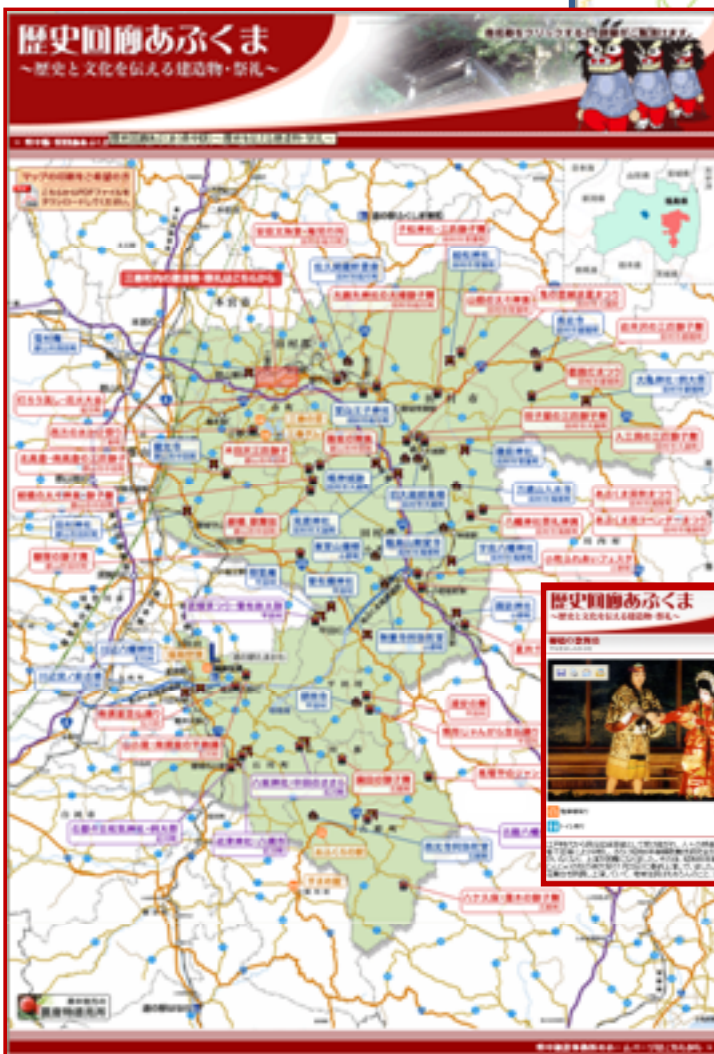
前号の答え

いわき湯本温泉の開湯は何時代でしょう。 A. 奈良時代



# ふる里回廊 歴史回廊 桜回廊

県では「回廊シリーズ」として、さくら回廊、ふる里回廊、歴史回廊のホームページを開設しています。だれもが知っている有名処から隠れた名所まで、たくさんの情報を掲載しております。まだ全県の情報は揃っておりませんので、随時更新してまいります。お楽しみに(^-^)/

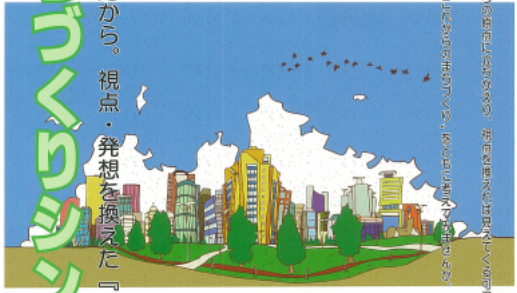


「ふる里回廊」や「歴史回廊」等はまちづくり推進課のホームページ『うつくしま、情報発信局』からご覧いただけますので、アクセスして見てください！！

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>

# まちづくりシンポジウム2008

「今こそ地方から。視点・発想を換えた『これからのまちづくり』」



開催日時 ● 2008年5月21日(水)  
13:00 開場/受付 13:30 開始 16:30 終了

会場 ● 郡山市民文化センター 中ホール  
福島県郡山市堤下町1番2号 TEL.024-934-2288



主催：財団法人福島県区画整理協会 共催：福島県 後援：福島民報社 福島民友新聞社

基調講演 ● 13:35 ~ 14:20  
「地域再生の戦略」



月尾嘉男【東京大学名誉教授】  
1942年生まれ。東京大学工学部卒業。名古屋大学、東京大学教授などを経て、2002年~2005年副総長を歴任。著書に『地域再生の戦略』、『これからのまちづくり』、『東京プロトタイプ』など多数。TVで『ドクター月尾の地球の歩き方』(BS 高月~金 4:55~)出演。

パネルディスカッション ● 14:35 ~ 16:30 (質疑応答後15分)  
「今こそ地方から。視点・発想を換えた『これからのまちづくり』」

コーディネーター ● 小池博典【香取平成大学現代ライフ学部教授、工学博士、土地政策学専攻】  
建設省(国土交通省)都市計画課副課長補佐、福島県土木部建築課副課長などを経て現職。専門は都市計画、都市政策、都市開発。

パネラー ● 伊藤和【タウン誌「和」の編集長】  
郡山市中心市街地活性化推進委員会委員なども務める。同誌は「郡山でやるん、やるん、あきらめずものは何かをやる」と、まちづくりをテーマとして1975年に発行された。

チョン センギル【ソウル在住、NPO法人「ふくまわっと」理事長】  
福島大学で「都市の設計文化」、福島大学で「国際建築」を専攻。南北と韓国の間の交流を進めながら地域活性化に取り組んでいる。

本田隆之助【(株)金沢市のホクセンサービス代表取締役】  
金沢市で和洋食品店を経営。17年活用しながら自治体、生産者として市街地とまちづくりに取り組む。「お隣のプロジェクト」なども展開中。

高島俊夫【いわき市都市計画課長】  
1975年いわき市役所入庁。都市計画課長、土木部長などを経て現職。

司会：藤橋ユミ【フリーアナウンサー】  
テレビユー福島で「まるごと」の司会や「ニュースの森 ぶくしま」のキャスターなどを経て、現在TBS「サンデーモーニング」などに出演中。福島県産品。

さまざまな要因によって、地方と大都市との格差は加速度的に拡大・進行しています。少子高齢化をはじめ、産業競争力や自然環境の劣化、福利厚生や雇用の集中投資による弊害など... 私たちには、今すぐでも取組みなければならない多くの課題があります。しかし、大きく立ちだせるさまざまな課題も、視点を変えて発想を換えて見れば見えてくる可能性や、気がつく発想の転換があります。さらに原点に立ち戻って問い直してみると本来の豊かさが、生活の本質が、かけがえないものが、何が見えてくるはず。『発想から創造と自立へ』『階級や階級から共生へ』『喪失から回復へ』... これらを教訓に、「ぶくしま発」の「これからのまちづくり」をもとに考えたいと思います。

参加費：無料  
参加お申し込み方法：事前のお申し込みの必要はありません。開催当日、直接会場へお越しください。  
お問い合わせ先：財団法人福島県区画整理協会  
TEL: 024-921-5000 HP / <http://www.fukushima-kukaku.or.jp>

(財)福島県区画整理協会の主催のまちづくりシンポジウムが、2008年5月21日(水)13時より郡山市民文化センターで行われます。

東京大学名誉教授・月尾嘉男氏の基調講演「地域再生の戦略」のほか、「今こそ地方から。視点・発想を換えた『これからのまちづくり』」をテーマにパネルディスカッションが行われます。

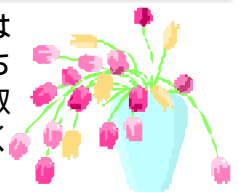
なお、事前のお申し込みは必要ありません。

お問い合わせは、(財)福島県区画整理協会まで。

電話 024-921-5000 HP / <http://www.fukushima-kukaku.or.jp>

## 編集後記

「まちづくり瓦版~うつくしま、まちづくり推進レポート~」(Vol.28)はいかがでしたでしょうか? 今後は、街路や公園等の情報提供も含め、まちづくり推進課としてより充実したものにしていきたいと思っておりますので、取り上げてほしい事例や写真、ご意見・ご感想などございましたら遠慮なくお寄せ下さい。



メールマガジン(無料)の申し込みをご希望される方は、  
1. 団体会社名、2. 氏名、3. メールアドレス、4. 電話番号等(送信エラーの際のご連絡のため)、よろしければ、5. 性別、6. 年齢を記入の上、まちづくり推進課のメールアドレスまで希望する旨ご連絡下さい。

登録された方には、レポートの更新情報などをメールにてご案内いたします。

### 【発行元】

福島県土木部まちづくり推進課  
〒960-8670(住所記載不要)  
TEL 024-521-7510  
FAX 024-521-7956  
e-mail [machizukuri@pref.fukushima.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.jp)  
URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>